

教育研究業績概要

氏名 藤澤 豊				
研究分野		所属学会等の名称		
創薬錯体化学		日本薬学会、日本核医学会		
担当授業科目名 物理系薬学実習 I・II				
教育上の能力に関する事項				
事項	年	概要		
1 教育の実践例、教育に関する評価等				
2 作成した教科書、教材、指導書等 物理系薬学実習 I および II 実習書	2009-現在	共著、2 年次前期 物理系薬学実習における本学独自の実習書作成および改訂・編集（共著）		
3 教育実践に関係がある実務経験・委員・				
職務上の実績（学術団体や社会等における活動）に関する事項				
事項	年	概要		
1 資格、免許、特許、受賞等 薬剤師免許	2001 年 6 月	厚生労働省		
2 学術・社会活動上の・委員・講師・実務経験等				
研究業績等に関する事項				
著書名、報告書名等	単・共著の別	発行年	発行所等の名称	著者名・ページ数等
(著書)				
(報告書等) 新規 64Cu 標識ソマトスタチン誘導体を基盤とした次世代 NET 診断／治療薬の開発 新規アミノ酸 ATSMaa を利用した次世代 Cu-64 標識 NET 診断／治療薬の開発	2017 年 2019 年	単書 単書	鈴鹿医療科学大学 鈴鹿医療科学大学	文部科学省 科学研究費助成事業 (2015-2016 年度) 研究成果報告書 文部科学省 科学研究費助成事業 (2017-2018 年度) 研究成果報告書
学術論文 学会発表等の題名		発表者名		発表誌名・巻・ページ・発表年等 学会名・発表年・開催都市名等
(学術論文) ・ Differentiation of malignant tumours from granulomas by using dynamic [18F]-fluoro-L- α -methyltyrosine positron emission tomography ・ Development of the simultaneous LC/MS/MS analysis method for donepezil and memantine in the serum of patients with Alzheimer's disease ・ Adjustment of Conditions for Combining Oxybutynin Transdermal Patch with Heparinoid Cream in Mice by Analyzing Blood Concentrations of Oxybutynin Hydrochloride ・ Mechanisms of DNA damage induced by morin, an inhibitor of β -peptide aggregation		Aiko Yamaguchi, Hirofumi Hanaoka, <u>Yutaka Fujisawa</u> , Akihiro Morita, Yasuhiko Iida, ほか 7 名 Tmohisa Nakamura, <u>Yutaka Fujisawa</u> , Masayuki Morikawa, Shosuke Kawanishi, and Takaichi Miwa Yoshihito Murakami, Hidehisa Sekijima, <u>Yutaka Fujisawa</u> , and Kazuya Ooi. Yurie Mori, Shinya Kato, <u>Yutaka Fujisawa</u> , Shiho Ohnishi, Yusuke Hiraku, Shosuke		EJNMMI, 2015, 5(29), DOI 10.1186/s13550-015-0109-z 日本医薬品安全性学会会誌, 2017, 3(1), 29-42 Biol. Pharm. Bull, 2019 (42), 586-593 Free Radic Res, 2019, DOI:10.1080/10715762.2018.1562179

	Kawanishi, Mariko Murata & Shinji Oikawa	
(学会発表等)		
<ul style="list-style-type: none"> ・医療用アルブミン製剤中の微量元素濃度の日独比較と問題点 ・ Concentration of trace elements and their binding properties in medical albumin preparations ・ペプチド-金属錯体を基盤とした新規 DPP-IV 阻害剤の開発研究 ・膵 β 細胞の亜鉛ホメオスタシスの改善を目指した DPP-IV 阻害剤の開発研究 ・アザチアクラウンエーテルが結合したアズレン誘導体の合成と金属イオン添加による呈色反応 ・ Zinc Complexes as Dipeptidyl Peptidase-4 (DPP4) Inhibitor Mimetics ・亜鉛ペプチド錯体と糖尿病-新作用機構の提案— ・腫瘍と肉芽腫の鑑別診断における Dynamic ¹⁸F-FAMT PET の有用性の検討 ・MDA-MB-231 移入マウスにおける ⁶⁴Cu 標識ヘマトポルフィリンの腫瘍集積性評価 ・Zn²⁺は Incretin 分解酵素 DPP-4 の構造ゆらぎを安定化する ・アセトアルデヒド存在下における核酸付加体形成 ・ヒト乳腺がん細胞移入マウスにおける ⁶⁴Cu 標識 Hematoporphyrin 誘導体の腫瘍集積性評価 ・アセトアルデヒド処理による細胞内核酸アダクト形成 ・¹⁸F-FAMT を用いた腫瘍/炎症性病変の鑑別診断の可能性 ・アセトアルデヒド由来核酸アダクトの高感度検出 ・アセトアルデヒド由来核酸アダクトの培養細胞からの検出 ・Tumor imaging with ⁶⁴Cu labeled Hematoporphyrin derivatives in MDA-MB231 bearing mice ・アセトアルデヒド由来核酸アダクトの HL-60 細胞からの抽出 ・次世代 NET 診断/治療用薬剤の開発を目的とした ATSM-SST 誘導体の物性評価 ・ATSM-SST 誘導体の次世代 NET 診断薬としての有用性評価 ・神経内分泌腫瘍診断/治療薬開発における新規非天然アミノ酸 ATSMaa を用いた somatostatin 誘導体の物性最適化 ・新規アミノ酸 ATSMaa のアミノ酸トランスポーター標的化薬剤としての有用性評価 	<p>藤澤豊、植村雅子、米田誠治、飯田靖彦、森井孫俊、桜井弘</p> <p>Yutaka Fujisawa, Masako Uemura, Seiji Komeda, Yasuhiko Iida, Magotoshi Morii, Hiromu Sakurai</p> <p>藤澤豊、植村雅子、米田誠治、飯田靖彦、森井孫俊、桜井弘</p> <p>藤澤豊、植村雅子、米田誠治、定金豊、飯田靖彦、森井孫俊、桜井弘</p> <p>若林成知、藤澤豊、清水真、他 6 名</p> <p>Yutaka Fujisawa, Masako Uemura, Seiji Komeda, Yutaka Sadakane, Yasuhiko Iida, Magotoshi Morii, Hiromu Sakurai</p> <p>藤澤豊、桜井弘</p> <p>稲本沙季、藤澤豊、飯田靖彦、他 6 名</p> <p>中須賀彩、藤澤豊、飯田靖彦、他 7 名</p> <p>菊池紋嘉、高松圭太、藤井亮佑、藤澤豊、桜井弘、森井孫俊</p> <p>平井一行、藤澤 豊、倉屋 雄、ほか 4 名</p> <p>藤澤豊、飯田靖彦、他 8 名</p> <p>平井一行、藤澤 豊、倉屋 雄、ほか 4 名</p> <p>瀬ノ口周一、藤澤豊、森田明広、飯田靖彦、他 8 名</p> <p>土谷崇裕、平井一行、藤澤 豊、ほか 3 名</p> <p>平井一行、藤澤 豊、伊藤朱里、ほか 4 名</p> <p>Yutaka Fujisawa, Yasuhiko Iida, 他 8 名</p> <p>平井一行、藤澤 豊、伊藤朱里、ほか 5 名</p> <p>藤澤豊、飯田靖彦、他 4 名</p> <p>藤澤豊、飯田靖彦、他 3 名</p> <p>藤澤豊、飯田靖彦</p> <p>藤澤豊、飯田靖彦</p>	<p>日本薬学会第 130 年会、岡山 (2010)</p> <p>第 20 回 金属の関与する生体関連反応シンポジウム、徳島 (2010)</p> <p>日本薬学会第 131 年会、静岡 (2011)</p> <p>日本薬学会第 132 年会、札幌 (2012)</p> <p>第 23 回 基礎有機化学討論会、京都 (2012)</p> <p>第 22 回 金属の関与する生体関連反応シンポジウム、金沢 (2012)</p> <p>日本薬学会第 133 年会、横浜 (2013)</p> <p>日本薬学会 第 59 回 東海支部総会・大会、愛知 (2013)</p> <p>日本薬学会 第 59 回 東海支部総会・大会、愛知 (2013)</p> <p>日本薬学会 東海支部合同学術大会、三重 (2013)</p> <p>日本薬学会 第 23 回 東海支部合同学術大会、三重 (2013)</p> <p>日本薬学会第 134 年会、熊本 (2014)</p> <p>日本薬学会第 134 年会、熊本 (2014)</p> <p>日本薬学会 第 60 回 東海支部総会・大会、三重 (2013)</p> <p>日本薬学会 第 60 回 東海支部総会・大会、三重 2014</p> <p>日本薬学会 東海支部合同学術大会、静岡 2014</p> <p>EANM' 14, Gothenburg, Sweden (2014)</p> <p>日本薬学会第 135 年会、神戸 (2015)</p> <p>日本薬学会第 136 年会、横浜 (2016)</p> <p>日本薬学会第 137 年会、仙台 (2017)</p> <p>日本薬学会第 138 年会、金沢 (2018)</p> <p>日本薬学会第 140 年会、京都 (2020)</p>
(その他)		